

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700472		
法人名	有限会社 ひまわり		
事業所名	グループホームこのは 1F		
所在地	河東郡音更町新通20丁目1-1		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0194700472-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月担当者がご家族あてに手紙を写真付きで送っている
毎月、入居料の支払い時にご家族と交流ができる
毎日、利用者と一緒に行き買い物に行っている
毎週メニュー会議を行い、利用者の食べたいものをメニューに反映している
日々の生活の中で活躍できる場面がある(炊事・掃除・畑仕事など)
個室にトイレ・洗面台があり、家族が宿泊できる部屋がある
本人の希望に沿った外出支援をしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は木造の良さを活かした、ゆとりのある2階建ての建物である。遠方からの家族が宿泊する事を想定した個室や、全居室にトイレ設置、ユニットの床面は、安全性に配慮したクッション性のあるタイルカーペットが敷き詰められる等、随所に法人代表者の長年のケア経験からの拘りが感じられる。職員は、施設の運営理念である「人間としての尊厳を失わずに暮らしていけるようなケアを実践する」を念頭に、利用者が安心して暮らせる場を目指すと共に、笑顔で生活出来る様、明るく活気あるホーム作りに努めている。協力医療機関からの定期的な往診等、医療との連携をスムーズにすることで利用者、家族の安心を担っている。法人では、職員のモチベーションを向上させる取り組みとして、月1回の「ユニット交換」を行っている。事業所内だけではなく、法人が運営する隣のグループホームでの勤務も対象とし、相互刺激を目的としている。また、全職員を対象に自身が希望する研修・勉強会への参加や、スキルアップの為に教材購入等への援助を行っており、安心して働ける環境の整備にも配慮している。今後も地区での地域密着型サービスの拠点として、さらなる活躍が望まれる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間としての尊厳を失わずに暮らしていける様なケアを提供する」理念を玄関や事務所に掲示してある 新人教育の際に理念について説明を受けている	職員は入職時、新人研修で法人理念について学び、日常的に共有している。また、毎年度ユニットごとにケア目標を作り、達成度について定期的に会議の場で話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、行事への積極的な参加のほか畑の野菜を頂いたり、庭を見せてもらう等近所付き合いもある 回覧板を持って行ったりホームで作った赤飯のお裾分け等交流している	町内会の行事に参加し、地域と共に支えあう関係の構築を目指している。利用者と共にゴミ拾いや廃品回収に参加するなど、日常的に地域と交流する場を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や民生委員、町議の方などホーム見学をしてもらったり相談を受ける等している。見学や相談はいつでも受け付けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、代表者、利用者代表、地域の方と話し合いを行っている 2ヶ月に一度行っており、サービス内容の報告・改善、災害対策について意見を頂き、議事録を回覧している	運営推進会議は定例で開催し、利用者・家族・地域包括等の参加がある。利用者の生活の質の向上のためのモニター役として、また地域の課題とニーズの把握の場として活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問を受け、交流する機会を設けている 町からの依頼や講習会に参加し、サービス向上に努めている	利用者が安心して生活できるよう、活用できる制度を伝えている。事業所についての周知に努め、町がすすめる地域高齢者支援の活動にも、積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、18:00～7:30までは安全確保のため施錠している また、身体拘束については学習会に参加し、防止に努めている	内・外部の研修、勉強会等に参加し、身体拘束の排除・虐待について学んでいる。身体拘束と、ケアを高めるための視点も取り入れた虐待防止のマニュアルがあり、ケア方法について、定期的に振り返りの機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会に参加し、防止に努めているほか、ユニット内で勉強会を行い、職員の意識を高めている 契約の際には必ず重要事項説明書を渡し、充分に説明を行っており、不安や疑問がある場合にも理解納得の上で契約している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演会など学ぶ機会は持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や契約時に時間をかけて説明を行い、理解・納得に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時に話す機会を設けている 介護相談員の訪問や入居者代表に運営推進会議に参加して頂き機会を設けているが、運営に反映させるには至っていない	毎月、担当職員が利用者ごとに写真と直筆の手紙を家族に送付している。外出に関する希望や具体的にいきたい場所などの要望も叶えられるよう、職員が検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議で話す機会がある 個人面談の時間を設けている	ユニット会議や全体会議の際に、職員からの意見を聴取している。管理者が定期的に個人面談も行っており、職員個別の相談や目標について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談により把握し、環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容の掲示を行い、参加する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、研修に参加する等交流する機会がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けや日常の会話の中から受け取り努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接により聞き取りを行っている 手紙や電話等で状況を伝え意見を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接、入居予約時に具体的な状況を伺い、一番必要なものは何かを見極めプランを立てている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理や掃除を行い、日常会話や昔の話を伺い共に生活する中で喜怒哀楽を共有し、関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況を伝え、月に一度の手紙や電話等でコミュニケーションを取り関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じて出来る限りの外出支援をしている 遠方からの家族には宿泊できる部屋があり、関係が途切れないよう支援している	知人が来訪した際には利用者とゆったり過ごせるよう配慮している。利用者の力量や、混乱を起こさないかどうかや体調にも配慮し、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないよう事前に介入し、関係づくりが出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方にはお見舞いに行き、家族の方に近況を聞くなど関係を断ち切らぬよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話、言葉、表情から汲み取るように努めている 意向の把握が困難な方には、家族からの情報を得るなどし、本人本位に検討している	入居時にセンター方式のアセスメントを行い、日々の生活の中から情報や意向を書き加えている。意向の表出ができない利用者にはフェイススケールを活用し、個別に表情変化も加味しながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人、家族、前の施設の方から詳しい情報を頂き、職員間で情報を共有するようにしているほか、ご家族にセンター方式の用紙に記入してもらい情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面接により情報を得て把握している 日々の生活はモニタリング、記録、申し送りなどにより職員間で情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議、その都度相談申し送りなどで本人の意見や家族からの情報を話し合い、月一回のモニタリング、4ヶ月ごとのケアプランを作成している	計画のモニタリング、目標の達成状況などについてケア会議等の場で検討している。都度、見直しを行い、健康や身体状況に合わせて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間支援シートの記録や、申し送りで情報を共有し、記録を基に介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望した場合は外泊や外出をしている 相談、要望があれば話を聞き、受診対応など必要に応じた支援をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生ボランティア、保育所の訪問や運営推進会議の実施、避難訓練等で消防や地域の方にアドバイスをいただくなどしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医師が月に一度訪問診療を行っている 他病院受診は基本家族にお願いしているが、日常の様子を手紙に書き、情報を提供し必要時には職員が付き添い支援している	定期受診は原則、家族が対応している。専門外来の受診等の場合は適時、職員が同行している。必要に応じて添書を持参したり、訪問診療医、事業所の看護師にも引継ぎを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診ノートへの記入や週一回看護師勤務時に情報や気づきを伝え、指示を受け適切な看護を受けられるよう支援している 職員として看護職員を確保しているため、入居者の健康管理や体調に体調に合わせた対応が24時間できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合お見舞いに行き、状況を把握するよう努めている 職員が病院と連携を取り、早期退院できるよう情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の方針説明を行い、家族に意向を確認しているほか定期的に同意書を貰い意向を聞いているがあまり取り組めていない。 本人や家族の意向を踏まえ、安心した最期を迎えられるよう準備している	契約時に事業所の指針を説明し、状況に合わせて意向の再確認を行っている。医療機関との連携体制の構築、家族と共に終末期を支えるための話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故等発生に備えて、一斉連絡網を整備しているほか、年2回の避難訓練を実施している 応急手当や初期対応の勉強はしているが、定期的な訓練はできていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を仰ぎ、年2回の避難訓練を実施している 地域の協力はあるが、具体的な体制ができていない	今年度は昼夜想定で避難訓練を実施している。災害時のマニュアルがあり、備蓄も行っている。町内会との交流や運営推進会議を通じて、地域の参加・協力を呼び掛けている。	災害時に協力してもらいたい内容を伝え、役割をお願いする等の地域との協体制作りと、火災以外の災害を想定した訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、状況に応じた声掛けや話し対応には十分に配慮する様努めているが不十分なところもある 個人情報シュレッダーにかけ処分している 契約時に個人情報の扱いについて確認しサインをもらっている	職員は虐待や不適切なケアについて学び、接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に検討している。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように、短い質問や小さな事でも選択できるように心掛けている 自己決定が困難な方は、表情などから汲み取る様になっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ入浴や外出の支援を心掛けているが、すべての希望に添うのは難しい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は馴染みの人をお願いしたり、外出が困難な方は出張美容師を利用するなど本人の意向に添って出来るよう確認し、支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の希望したのもや季節のものをメニューに取り入れて、食事が楽しみになるように配慮している その人の力に応じて準備や片付け等の支援を行っている	ユニットごとに職員も利用者と同じ食卓に着き、皆で作った料理や会話を楽しんでいる。調理方法、嗜好等の要望を取り入れながら作成された献立が、リビングに掲示されており、日々の楽しみとなっている様子が伺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別にソフト食や粥食などの提供をしている 利用者各自の水分量や食事量などの記録を行っており、月に一度体重測定を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は声を掛け確認、介助が必要な方はその人に応じたケア(義歯洗浄介・口腔清拭)を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを記録を付け把握し、リズムに添って声掛け・誘導しトイレでの排泄を行っている 仕草や様子からさりげない声掛け誘導を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握している。サインを見逃さないよう日頃から意識し、声かけに工夫することで出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニュー会議で食事のバランスを考え献立を立てているほか、起床時の牛乳の提供、ラジオ体操を行うなどし働きかけを行っている また、水分摂取量・排便の記録を付け、都度対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	檜のお風呂で希望に沿って入浴できるよう支援している 拒否のある方は無理強ひせず、温泉に行くなど工夫している また、年に数回は全体で温泉に出かけている	曜日や時間帯を制限せず、利用者の体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。利用者の希望を取り入れ、温泉に出掛けるなど、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルを把握し、状況に応じて休んでもらっている 眠れない時は、好きな場所で過ごして頂き休息できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルで保管し、確認を行い症状に変化があれば、看護師と相談し対応している 服薬時には、名前・日付の確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を生かし、それぞれに調理・食器洗い・裁縫・畑・食事の挨拶・会議への参加など日課となるような役割を持って頂けるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や気分に対応し、散歩やドライブ、日常の買い物などに出かけている 畑や近所での散歩など、日常的に行っている	気候の良い時期には近所へ買い物、散歩に出かけたり、事業所の畑で野菜の栽培や草取りなどを行っている。閉じこもりがちにならないよう家族にも協力を得て、定期的な外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いの上で個々に対応している ホームで管理し、外出した際には本人の財布で支払えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでも対応できるようにしており子機もあるため、自室で電話できるようになっている 手紙についても年賀状等で対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはウッドデッキがあり日光浴を楽しめるようになっている また、絵画や写真を飾ったり、季節ごとの飾り付け(正月・雛人形・五月人形等)をしており、季節感を楽しめる工夫をしている	広大なリビングは、中央にある木造の柱部を部分的に仕切り壁に仕立て、食卓テーブルスペースとテレビを楽しめる応接セットスペース等、気配が感じられる程度に分けており、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。裏庭のホーム菜園脇には、国鉄 旧土幌線の名残がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが2ヶ所ありソファの置き方にも工夫しているので、思い思いに過ごせる場所がある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が以前から使用していたものや使い慣れたものを持ってきていただき、使用してもらうことで居心地よく過ごせるように工夫している	居室は自由に馴染みの家具を持ち込むことが出来、プライベート空間が確保されている。また、全居室にトイレが設置されているが、事故防止の観点から、あえてウォッシュレットなしが選択されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての廊下や自室に手すりを設置しているほか、安全に移動出来るようエレベーターも利用することができる また、床はバリアフリーになっており、自室には物干しやトイレがあり、一人でできる環境づくりもしている		